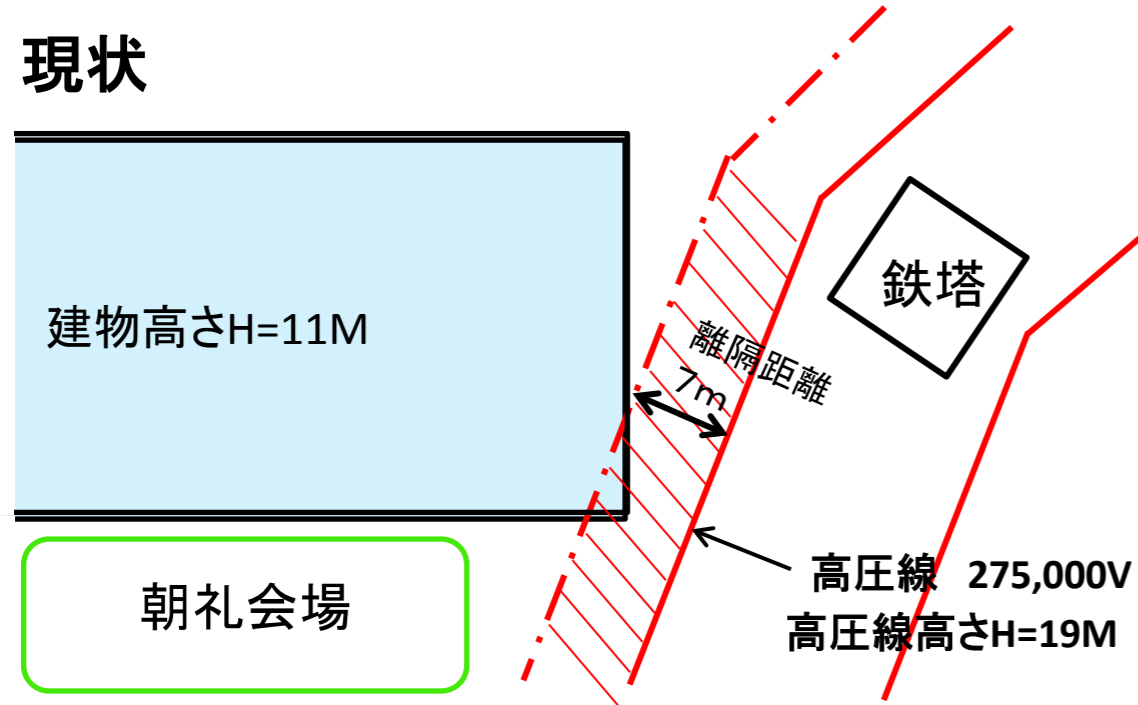


高圧線の放電による離隔距離の見える化

現状



上図のように建物に近接して高圧線(275,000V)が上空に架線されている。屋上階付近では高圧線の離隔範囲(7m以上)に入りうる空間があるので屋上作業、外部足場上での作業、揚重作業では離隔を確保したうえでの作業が必要である。

↓
見える化対策により離隔距離を確保し、高圧線近接作業での事故防止を図る

見える化 対策

- ①朝礼看板に高圧線離隔図の詳細図を設置。
→毎日必ず目に入るように現場の重点危険個所であるという事を日々周知した。
- ②屋上階にて高圧線離隔距離をロープを張ることにより可視化。
→感覚では捉えづらい高圧線の離隔距離をより分かり易くした。
- ③ロープに高圧線注意のペナントを設置し注意喚起。
→ペナント設置により区画の理由、危険区域がより明確にした。
- ④高圧線が近接する外部足場最上部ではトップアンチにし、作業員が上がれないようにした

見える化対策 ① (朝礼広場に掲示)



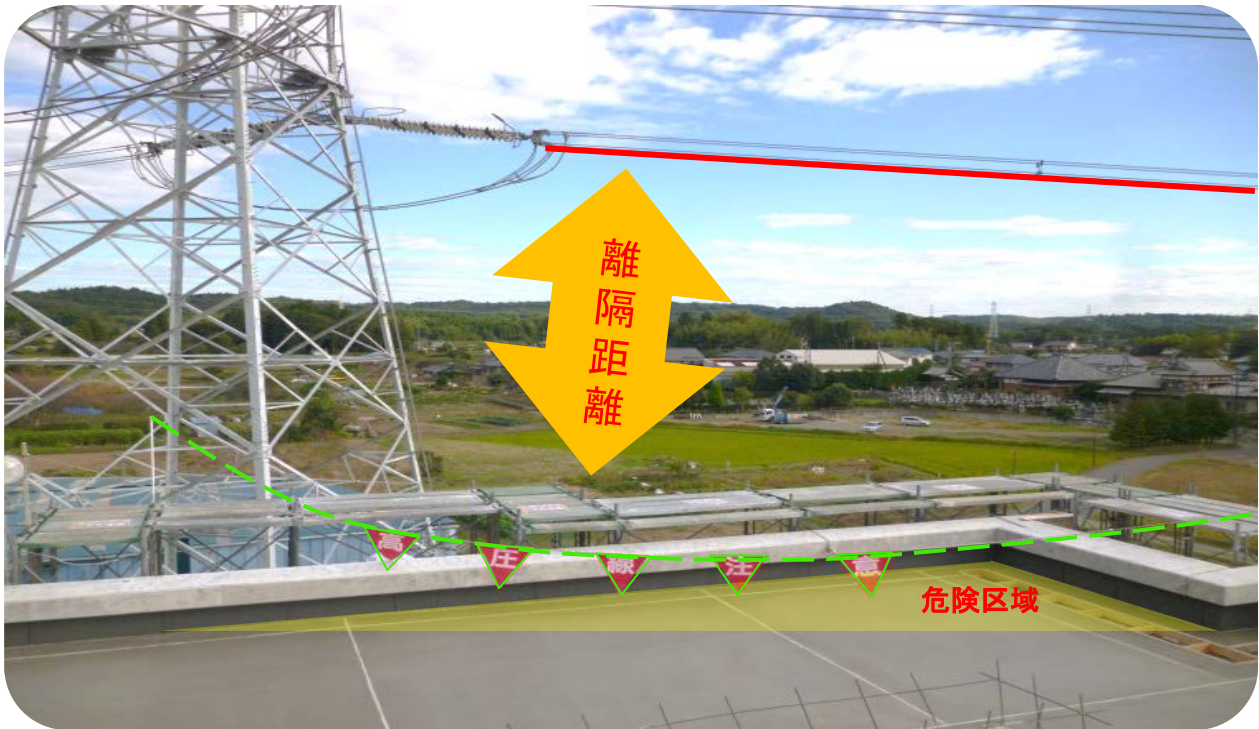


見える化対策 ②③
(屋上階に表示)



見える化対策④
(外部足場最上部を道板にて塞ぎ、上部への材料突出し、作業員の近接を防ぐ)

高圧線の放電による離隔距離の見える化



1



2



3

ポイント

- ① 離隔距離をロープを張ることにより可視化。
感覚では捉えづらい高圧線の離隔距離をより分かり易くした。(写真1)
- ② ロープに高圧線注意のペナントを設置し注意喚起。
ペナント設置により区画の理由、危険区域がより明確にした。(写真2)
- ③ 離隔下部になる外部足場はトップアンチにし資材の高さを制限。
上部にアンチを設けることにより資材をそれよりも高く運ばなくしヒューマンエラーをなくした。(写真3)
- ④ 朝礼看板に高圧線離隔図の詳細図を設置。
毎日必ず目に入るように現場の重点危険個所であるという事を日々周知した。(前P1)

まとめ

これらの対策により高圧線による無事故を維持し続けている。